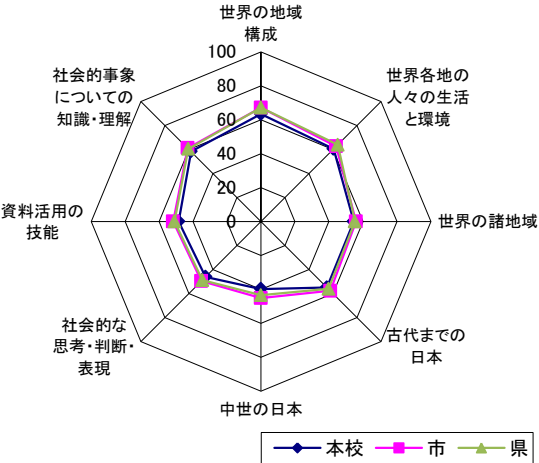


宇都宮市立陽南中学校第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	63.3	67.1	67.1
	世界各地の人々の生活と環境	60.4	62.6	63.9
	世界の諸地域	54.6	55.9	55.3
	古代までの日本	54.9	57.8	56.2
	中世の日本	39.8	45.1	43.5
観点	社会的な思考・判断・表現	46.2	49.7	48.9
	資料活用技能	48.5	51.8	51.0
	社会的な事象についての知識・理解	58.3	61.1	60.6



★指導の工夫と改善 ○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○世界の海洋分布や、地域区分の理解は、県の平均とほぼ同じである。 ●緯度・経度の理解をもとに、地図を読み取る問題、様々な世界地図を活用する問題において正答率が県の平均と比較して3.8ポイント低い。	地図に関する基礎的な知識を定着させるとともに、様々な地図を授業の中で活用して課題を解決する場面を多くもつ。
世界各地の人々の生活と環境	○世界の人々の住居についての理解は、県の平均とほぼ同じである。 ●世界各地の人々の生活と環境についての理解をもとに、雨温図について判断し、その判断の根拠を説明する問題について、正答率が県の平均と比較して7.7ポイント低い。	雨温図の読み取りができるよう、基礎的な知識の定着を図り、活用できるよう指導する。また、しっかりとした根拠をもとに正答を判断できるよう発問や発表の仕方、課題を工夫していく。
世界の諸地域	○季節風とアジア州の気候との関係についての理解は、正答率が県の平均と比較して6.1ポイント高い。 ●アジア州の産業の発展について、資料を読み取って考え、説明する問題について、正答率が県の平均と比較して5ポイント低い。	資料の読み取りを繰り返し行うとともに、考えを記述する課題を取り入れていく。授業中に教科書の図を活用して、読み取る時間をもつようにしていく。
古代までの日本	○年代の表し方についての知識については、正答率が県の平均と比較して1.3ポイント高い。 ●世界の古代文明に関する理解については、正答率が県の平均と比較して4.2ポイント低い。	授業の中で西暦年を用いる場合にも、何世紀か考えさせる場面を取り入れ、年代の表し方についての理解をさらに高めていく。 地図や表などの資料を積極的に活用し、世界の文明について総合的な理解を深めさせるようにしたい。
中世の日本	○奈良から平安にかけての政治の特色についての理解については、正答率が県の平均と比較して3.1ポイント高い。 ●承久の乱についての理解をもとに、鎌倉幕府のしくみの変化について考え説明する問題について、正答率が5.3ポイント低い。	幕府のしくみについて、各時代ごとの比較をしながら特色をとらえられるよう、板書やまとめを工夫していく。記述問題に繰り返し取り組ませていく。